

「世界盆踊り連」活動報告

タシケント市の「盆踊りの夕べ」 2010年5月23日

報告者：家弓 重正

1. 概要

- 場 所： ウズベキスタン国、タシケント市、110番学校
- 日 時： 2010年5月23日（日） 16:00-19:00
- 主催者： 在ウズベキスタン日本国大使館
ウズベキスタン・日本人材開発センター（UJC）
ウズベキスタン日本人会
- 後 援： JICA ウズベキスタン事務所、110番学校
- 協 力： ボランティア有志（実行委員会）
- 参加人数： 約550人
- プログラム： 16:00 開場 16:30 開会 19:00 閉会
- 踊りの曲目： ドラえもん音頭、東京音頭、炭坑節、りんごん、阿波踊り
- アトラクション： ウズベキスタンの民族舞踊（芸術大学学生）
よさこいソーラン（ウズベク人の「踊り隊」）

2. 全体の踊りの指導

青年海外協力隊員の永田麻美子さんがUJCに派遣されて青少年活動を行っており、今回の「盆踊りの夕べ」で踊る踊りをウズベク人に教える役割を担っていた。永田さんは、盆踊りの本番で中心になって踊る踊り子（「踊り隊」と呼んでいる）を募集したところ、中学生から大学生くらいの男女約20人集まった。永田さんはUJCの教室で2009年11月からこの「踊り隊」に熱心に踊りを教えてきた。また、本番で踊りが始まる前に、踊り方をロシア語で説明する人を決めてその練習も事前に十分に行ってきた。これが本番で役に立ったと思われる。報告者が初めてUJCで「踊り隊」の練習をみたところ、かなりの完成度であった。永田さんによると、踊り方は主にYOUTUBEで見つけたとのことである。

出前講習会として、日本語を教える協力隊員がいるタシケント市内の高校へ出向き、日本語を勉強している学生に講習会を実施したところ、約50人の学生ほぼ全員が講堂の中で大きな輪を作り、踊りを楽しんでくれた。この学生の中の10人位は本番にも参加していたようである。このように事前の練習が十分にできると本番が盛り上がるものである。

3. 「世界盆踊り連」の関り・役割

報告者は、ウズベキスタン日本人会長から要請を受けて今回の盆踊りに参加した。タシケントには5月17日の夜に到着し24日の夜まで滞在した。

事前の踊りの練習に参加して主に阿波踊りを指導、23日の本番では太鼓を叩き、阿波踊りの先導をした。事前の練習はUJCで「踊り隊」の練習を2回と現地日本人対象の講習を2回行い、高校への出前講習に参加した。

本番では、大使の開会挨拶、踊りが開始される時、日本人会会長の閉会挨拶で「世界盆踊り連」を丁寧に紹介していただいた。

4. 当日の様子

タシケントは前日大雨であったが、当日は晴れてはいたが開場の直前にパラパラと雨が落ちてきて関係者をやきもきさせたが、開会になるときは見事に晴れて暑いくらいであった。

午前中から実行委員を中心に舞台設営が行われ、綺麗に完成された。舞台に飾り付けた提灯は、UJC で提燈作成講座を行い、受講者の手作りであるが、これが舞台の雰囲気盛り上げていた。

開演は時間通りに始まり、開催者の挨拶が終わり、最初に踊りの輪を作るときにどうなるかと心配したが、会場に来ていた人のほとんどが一斉に舞台を遠巻きにして輪を作った。立っているよりは踊るほうが良いと思ったのか、ウズベキスタン人の気質なのかすんなりと輪を作ってくれたのでほっとした。会場には座る場所がほとんど無かったのも良かったのかもしれない。このように来場した人のほとんどが踊りの輪に入っていたし、最初から最後まで踊っていた人も多かったのも他の国の盆踊りと違いとこであった。

ほとんどの来場者は、初めて日本の曲で踊りを踊るのであろうが、舞台の上では綺麗な日本の浴衣をきたウズベク人が踊りを先導しているのを見ると、初めての人にも踊りやすい雰囲気であったのかと思われる。

会場で見えたウズベキスタンの民族舞踊は日本の盆踊りよりは複雑な動きに見えた。よって彼らにとっては、日本の踊りは易しく見えるでしょう。

2時間半の盆踊りのプログラムの間にウズベキスタンの踊りを見るとき、よさこいソーランを見るとき、抽選会するとき盆踊りは中断したが、その後もすぐに盆踊りに復帰できたのも幸いであった。

会場敷地内では水などの飲み物と軽食の販売も行っていた。市内の業者をお願いをして出店をもらったものである。飲食後のゴミの心配もあったが、各所にゴミ箱を取り付けたので散乱するようなことは無かった。又、大会終了後は現地人ボランティア、実行委員会を中心にゴミ拾いを行った。

プログラムは少し早めに終わったが、参加者は「もっと踊りたい!」というリアクションをしていたので、今回のタシケントで初めての盆踊りの夕べは成功、盛況であったと言える。

5. 所感

現地で聞いたところによると、ウズベキスタン国では、このような盆踊りも集会と見なされて場所の選定や許可を取るのが難しく、大使館のサポートが必要であった。盆踊り開催にあたり4月より実行委員会を結成し綿密な打合せを繰り返してきたが、当初予定していた会場が使えなくなり直前に今の場所に変更になったようである。

このような困難な状況でありながらも、タシケント在住の少ない日本人が一致団結してウズベキスタンで初めての「盆踊りの夕べ」が無事に開催された。その結果、日本人もウズベク人も共に踊りを楽しみながら相互理解・友好促進を実現した意義は大きいと感じた。

このような草の根レベルとも言える踊りを通した文化交流は、参加者が直接に交流できる有効な手段であると感じた次第である。報告者も微力ながらもお役に立てたと思うし、大いに楽しむことが出来たことを、関係者の皆様へ感謝するものである。

ウズベキスタンでは、このように大勢と一緒に同じように踊ることは少ないようだと言ったので、盆踊りは新鮮なイベントであったでしょう。

結論として、ウズベキスタンの人は踊ることが大好きである。

6. 写真

○事前の練習写真数枚

○本番の写真数枚

以上